

令和 3 年度
川島町財務書類 4 表

※各表は、いずれも表示単位の端数処理の関係上、合計等が一致しない場合があります。

目 次

1	令和3年度川島町財務書類4表について	
(1)	はじめに	1
(2)	統一的な基準とは	1
(3)	対象とする会計の範囲	1
(4)	作成基準日	2
(5)	財務書類4表とは	2
(6)	財務書類4表の相関関係	6
(7)	科目説明	7
2	令和3年度川島町一般会計等財務書類4表	
(1)	一般会計等貸借対照表	11
(2)	一般会計等行政コスト計算書	12
(3)	一般会計等純資産変動計算書	13
(4)	一般会計等資金収支計算書	14
3	令和3年度川島町全体財務書類4表	
(1)	全体貸借対照表	15
(2)	全体行政コスト計算書	16
(3)	全体純資産変動計算書	17
(4)	全体資金収支計算書	18
4	令和3年度川島町連結財務書類4表	
(1)	連結貸借対照表	19
(2)	連結行政コスト計算書	20
(3)	連結純資産変動計算書	21
(4)	連結資金収支計算書	22
5	各指標による分析	23

1 令和3年度川島町財務書類4表について

(1) はじめに

川島町では、平成22年度決算から既存の決算統計データを活用した簡便な作成方法である総務省方式改訂モデルにより普通会計（一般会計及び学校給食費特別会計）の財務書類4表を、平成23年度決算からは普通会計分に加え、他の特別会計及び一部事務組合・広域連合を含めた財務書類4表を作成しています。

多くの地方公共団体が財務書類の作成・公表に取り組んでいますが、「総務省方式改訂モデル」、「基準モデル」、「東京都方式」などの複数の作成方式が存在しており、団体間での比較が困難などの課題がありました。このため総務省では、平成27年1月に「統一的な基準による地方公会計の整備促進について〔総務大臣通知〕」を示し、平成27年度から29年度までの3年間で、全ての地方公共団体において「統一的な基準」による財務書類等を作成するよう要請しています。

このことから、川島町では、平成27年1月に総務省から示された「統一的な基準による地方公会計マニュアル」に基づき、平成27年度決算から統一的な基準による財務書類4表を作成しました。

(2) 統一的な基準とは

会計処理方法として民間企業会計と同様の複式簿記や発生主義会計を導入するとともに、現存する固定資産を洗い出し、固定資産台帳を整備することで、現金取引（歳入・歳出）に加えて、ストック情報（資産・負債・純資産の期末残高）及びフロー情報（期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動）を網羅的に把握できます。

また、今後、全国統一の基準であるため、各団体間での比較可能性が確保されます。

(3) 対象とする会計の範囲

川島町では、財務書類4表をそれぞれ一般会計等、全体、連結ベースで作成しています。

全体とは、一般会計等に特別会計及び公営企業会計である水道事業会計、下水道事業会計を含めたもので、連結とは全体に一部事務組合等を含めたものです。

（※平成29年度決算より水道事業会計を全体会計に含めております）

（※平成30年度決算より川島町社会福祉協議会を連結会計に含めております）

○一般会計等

一般会計

○特別会計

国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、水道事業会計、下水道事業会計

○一部事務組合等

埼玉縣市町村総合事務組合、埼玉県後期高齢者広域連合、彩の国さいたま人づくり広域連合、川越地区消防組合、比企広域市町村圏組合、川島町社会福祉協議会、一般社団法人さまちか

(4) 作成基準日

作成基準日は、会計年度の最終日である令和4年3月31日を基準日として作成しています。令和4年4月1日から令和4年5月31日までの出納整理期間の収支については、基準日までに収入・支出があったものとして取り扱っています。

(5) 財務書類4表とは

財務書類は、貸借対照表 (BS)、行政コスト計算書 (PL)、純資産変動計算書 (NW)、資金収支計算書 (CF) の4表で構成されています。

①貸借対照表【BS】

貸借対照表は、基準日時点における財政状態を明らかにするもので、資産、負債、純資産の3つの要素から構成されています。左側に住民の財産や権利など将来にわたる様々な行政サービスを提供する「資産」を、右側にそれらを築くための借入金などで将来の世代が返済することになる「負債」、国や県からの補助金、税などにより今までの世代が負担し、返済の必要がない「純資産」として記載されています。

<p>A 資産 (所有財産や権利で、将来世代が享受するであろう便益)</p> <p>1. 固定資産</p> <p>a. 有形固定資産</p> <p>①事業用資産 庁舎・学校・公民館などの資産</p> <p>②インフラ資産 道路・公園・下水道など売却できないとされた資産</p> <p>③物品</p> <p>b. 無形固定資産</p> <p>c. 投資その他の資産 出資金、積立金など長期に保有するもの</p> <p>2. 流動資産 現金及び3ヶ月以内の預金等</p>	<p>B 負債(将来世代が負うことになる借金などの負担)</p> <p>1. 固定負債</p> <p>a. 地方債 発行した公債のうち、償還期限が1年を超えるもの</p> <p>b. 退職手当引当金 年度末に全職員が退職した場合に支払うべき金額</p> <p>c. その他 1年を超えて支払いや返済を予定している債務</p> <p>2. 流動負債</p> <p>a. 1年以内償還予定地方債 発行した公債のうち、翌年度償還を予定しているもの</p> <p>b. 賞与引当金 翌期に支払う賞与に備えて、見積計上した金額</p> <p>c. その他 1年以内に支払や返済を予定している債務</p>
<p style="text-align: center;">資 産 合 計</p>	<p>C 純資産【A-B】 (現在までの世代が負担した金額で、返済の必要がない正味の資産)</p> <p>1. 固定資産等形成分 資産形成のために充当した財源の蓄積</p> <p>2. 余剰分(不足分) 地方公共団体の費消可能な財源の蓄積</p> <p style="text-align: center;">負 債 ・ 純 資 産 合 計</p>

②行政コスト計算書【PL】

自治体の行政活動は将来の世代も利用できる資産の形成だけでなく、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない当該年度の行政サービスも提供しています。行政コスト計算書は、会計期間中の業績、つまり、1年間の行政サービスに費やされたコスト（費用）と収益の取引高を明らかにするものです。現行会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

A 経常費用【I + II + III + IV】 I. 人件費 職員の給与・議員歳費・退職手当など II. 物件費 物品購入・光熱水費・施設などの修繕費・減価償却費など III. 移転費用 社会保障給付費・各種団体への補助金など IV. その他のコスト 地方債の利子、徴収不能引当金繰入額など
B 経常収益 行政サービスの利用で住民の皆さんが直接負担する施設使用料・手数料・保険料 及び利子・配当金等保有資産から発生する収益など
C 純経常行政コスト【A - B】 経常費用から経常収益を差し引いて計算をする、通常活動により経常的に生ずる行政コスト
D 臨時損益 収益、費用のうち臨時的に発生するもの
E 純行政コスト【C + D】 純経常行政コストから臨時損益を考慮した純粋な行政コスト

③純資産変動計算書【NW】

純資産変動計算書は、会計期間中の貸借対照表の純資産の変動、すなわち政策形成上の意思決定またはその他の事象による純資産の変動及びその内部構成の変動（その他の純資産減少原因・財源及びその他の純資産増加原因の取引高）を明らかにするものです。すなわち貸借対照表の純資産の期首と期末の残高と期中の増加及び減少、それぞれの額を表しています。

A 前年度末純資産残高
B 本年分純資産変動額【 I + II + III + IV + V + VI】
I. 純行政コスト 純行政コストへの財源措置、固定資産形成への財源措置など
II. 財源【a+b】
a. 税収等 地方税、地方交付税、地方譲与税など
b. 国県等補助金 国庫支出金、県支出金
III. 固定資産等の変動(内部変動)
a. 有形固定資産の増加・減少 有形・無形固定資産の購入、売却、減価償却、除却など
b. 貸付金・基金の増加・減少 貸付金の貸付け、回収・基金の増加、取崩など
IV. 資産評価差額 有価証券などの評価差額
V. 無償所管換等 無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
VI. その他 上記以外の純資産及び内部構成の変動
C 本年度末純資産残高【A+B】

④資金収支計算書【CF】

資金収支計算書は、会計期間中の資金収支の状態、すなわち資金の利用状況及び資金の獲得能力を明らかにするものです。期首と期末の残高と期中の増加及び減少、それぞれの額を表しています。現行の現金主義会計の決算書に近い書類になります。

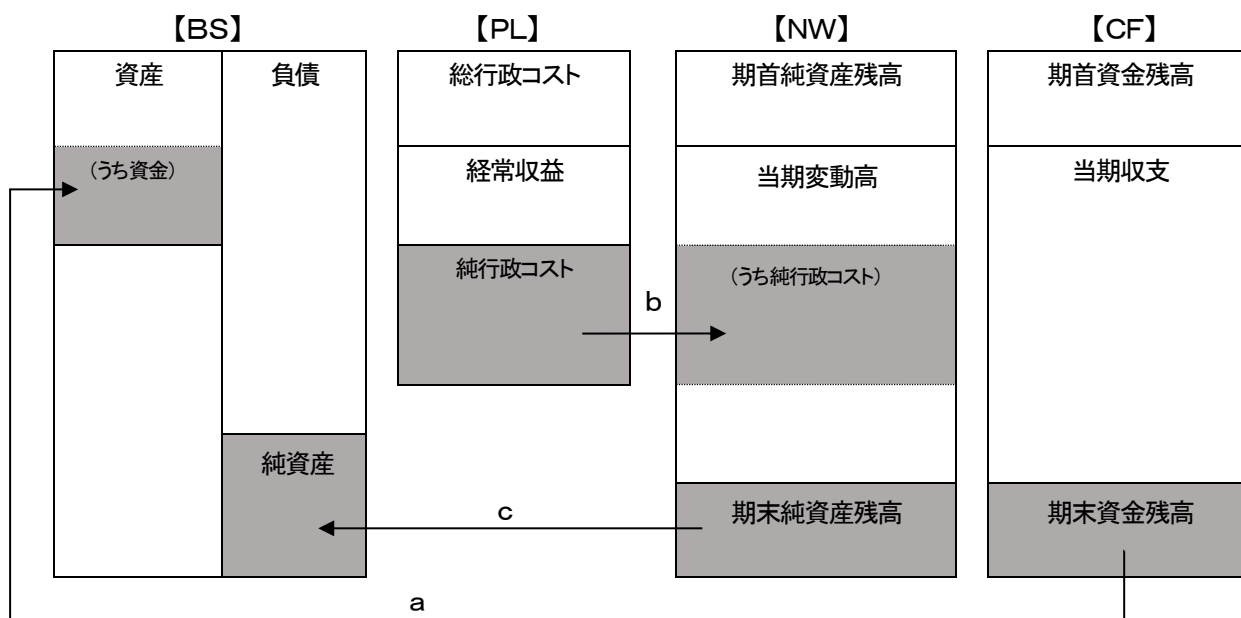
A 本年度資金収支額(I + II + III)
I . 業務活動収支(b+d-a-c)
a. 業務支出
業務費用支出…人件費・物件費・支払利息など
移転費用支出…補助金等支出・社会保障給付支出など
b. 業務収入
地方税・国庫補助金収入・社会保険料・使用料など
c. 臨時支出
b. 臨時収入
II . 投資活動収支(b-a)
a. 投資活動支出
公共施設等整備等支出・基金の積立など
b. 投資活動収入
基金の取崩し・資産の売却など
III . 財務活動収支(b-a)
a. 財務活動支出
公債の返済など
b. 財務活動収入
公債の発行収入など
B 前年度末資金残高
C 本年度末資金残高(A+B)

(6) 財務書類4表の相関関係

4つの財務書類の関連性には下記の3つポイントがあり、その相関関係は下記の図のようになります。

- a. 貸借対照表【BS】の資金は資金収支計算書【CF】の期末残高と対応します。
貸借対照表上の資金とは、決算日時点での現金及び預金のことであり、資金収支計算書で示される期末残高と対応します。資金収支計算書は資金の期中の動きを表しており、貸借対照表の資金の明細表といえます。
- b. 行政コスト計算書【PL】の純行政コストは純資産変動計算書【NW】の純行政コストと対応します。
行政コスト計算書の純行政コストは何らかの財源が充てられたものであり、その財源は純資産変動計算書に計上されています。したがって、純資産変動計算書における当期変動高の財源の使途のうち、純行政コストへの財源措置の金額と対応します。
- c. 貸借対照表【BS】の純資産は純資産変動計算書【NW】の期末残高と対応します。
貸借対照表の純資産は資産と負債の差額として示され、純資産変動計算書の期末残高と対応します。純資産変動計算書は純資産の期中の増減を表しており、貸借対照表の純資産の部の明細表といえます。

—四表の相関関係図—



(7) 科目説明

貸借対照表(BS)の科目

科目名	内容説明
【資産の部】	自治体が所有する財産や権利
固定資産	
有形固定資産	土地、建物、工作物、建設仮勘定など
事業用資産	インフラ資産及び物品以外の有形固定資産
インフラ資産	道路、下水道、水道、橋梁、公園など
物品	物品、美術品、車両等
無形固定資産	ソフトウェア、著作権、特許権など
投資その他の資産	
投資及び出資金	株券、公債証券、
投資損失引当金	投資損失の計上見込み額
長期延滞債権	滞納繰越調定収入未済の収益及び財源
長期貸付金	1年を超えて回収する予定の貸付金
基金	長期運用のための積立金
徴収不能引当金	長期延滞債権に対する徴収不能見込額
流動資産	
現金預金	現金及び預金
未収金	現年調定現年收入未済の収益及び財源
短期貸付金	1年以内に回収する予定の貸付金
基金	短期運用のための積立金
棚卸資産	売却をするために取得した資産
徴収不能引当金	未収入金に対する徴収不能見込額
【負債の部】	
固定負債	
地方債	発行した公債のうち返済期限が1年を超えるもの
長期未払金	未払い金のうち返済期限が1年を超えるもの
退職手当引当金	年度末に全職員が退職した場合に支払うべき退職金
損失補償等引当金	第3セクター等の債務のうち、将来自治体の負担となる可能性がある金額
流動負債	
1年以内償還予定地方債	発行した公債のうち返済期限が1年以内のもの
未払金及び未払費用	代金の支払いが済んでいないもの
前受金及び前受収益	翌年度の使用料等を先に受け取った金額
賞与引当金	翌年度に支払う事が予定されている賞与のうち、当年度負担の金額
預り金	第三者からの預り金
【純資産の部】	
固定資産等形成分	資産形成のために充当した財源の蓄積
余剰分(不足分)	地方公共団体の費消可能な財源の蓄積

行政コスト計算書(PL)の科目

科目名	内容説明
【経常費用】	収益のうち毎年度経常的に発生するもの
業務費用	
人件費	
職員給与等	職員等に対する勤労の対価や報酬
賞与引当金繰入額	当年度の費用とすべき賞与引当金
退職手当引当金繰入額	当年度の費用とすべき退職金の見積額
物件費等	
物件費	職員旅費、委託料、消耗品費など
維持補修費	資産の機能維持のために必要な修繕費等
減価償却費	使用や時の経過による有形固定資産の当年度分の価値減少額
その他の業務費用	
支払利息	公債や借入金に対する利息の負担金額
徴収不能引当金繰入額	当年度の費用とすべき徴収不能引当金
移転費用	
補助金等	政策的目的による補助金
社会保障給付	社会保障給付としての扶助費等
他会計への繰出金	地方公営事業会計に対する繰出金
経常収益	収益のうち毎年度経常的に発生するもの
使用料及び手数料	行政サービス提供の対価として受け取る収益
受取利息等	利子及び配当金など
純経常行政コスト	毎年度経常的に発生するコスト
臨時損失	
災害復旧事業費	災害復旧に関する費用
資産除売却損	資産を売却した際に発生した損失
投資損失引当金繰入額	当年度の費用とすべき投資損失引当金
損失補償等引当金繰入額	当年度の費用とすべき損失補償等引当金
臨時利益	
資産売却益	資産を売却した際に発生した利益
純行政コスト	当年度において発生したコスト

純資産変動計算書(NW)の科目

科目名	内容説明
前年度末純資産残高	
純行政コスト(△)	行政コスト計算書の収支戻
財源	
収等	地方税、地方交付税及び地方譲与税等
国県等補助金	国支出金及び県支出金等
固定資産等の変動	
有形固定資産等の増加	有形、無形固定資産の形成のための支出
有形固定資産等の減少	有形、無形固定資産の減価償却、売却、除却等による減少
貸付金・基金等の増加	貸付金・基金等の形成による保有資産の増加
貸付金・基金等の減少	貸付金・基金等の取り崩し等による保有資産の減少
資産評価差額	有価証券等の評価差額
無償所管換等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等
本年度純資産変動額	

資金収支計算書(CF)の科目

科目名	内容説明
【事業活動収支】	
業務支出	
業務費用支出	
人件費支出	人件費に係る支出
物件費支出	物件費に係る支出
支払利息支出	地方債等に係る支払利息の支出
移転費用支出	
補助金等支出	補助金に係る支出
社会保障給付支出	社会保障給付に係る支出
他会計への繰出支出	他会計への繰出に係る支出
業務収入	
税収等収入	
租税収入	税金等の収入
社会保険料収入	社会保険料の収入
他会計からの移転収入	他会計からの移転に係る収入
国庫補助金収入	国庫補助金のうち業務支出の財源に充当した金額
使用料及び手数料収入	使用料及び手数料の収入
臨時支出	
災害復旧事業費支出	災害復旧事業に伴う支出
臨時収入	
国庫補助金収入	国庫補助金のうち臨時支出の財源に充当した金額
【投資活動収支】	
投資活動支出	
公共施設等整備費支出	有形固定資産の形成に係る支出
基金積立金支出	基金の積立に伴う支出
投資及び出資金支出	有価証券、出資の購入に伴う支出
貸付金支出	資金貸付による支出
投資活動収入	
国庫補助金収入	国庫補助金のうち投資活動支出の財源に充当した金額
基金取崩収入	基金の取崩に伴う収入
貸付金元本回収収入	貸付金元本回収による収入
資産売却収入	資産売却による収入
【財務活動収支】	
財務活動支出	
地方債償還支出	公債元本償還による支出
短期借入金支出	金融機関等への元本返済による支出
財務活動収入	
地方債発行収入	公債発行による収入
短期借入金収入	金融機関等からの借り入れによる収入
前年度末資金残高	
本年度末資金残高	

2 令和3年度川島町一般会計等財務書類4表

貸借対照表			
(令和4年3月31日現在)			
自治体名: 川島町			
会計: 一般会計等		(単位: 千円)	
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	25,728,425	固定負債	6,973,265
有形固定資産	24,184,410	地方債	5,517,997
事業用資産	11,189,568	長期未払金	-
土地	4,138,504	退職手当引当金	1,351,627
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	18,771,235	その他	103,642
建物減価償却累計額	-11,977,908	流動負債	735,130
工作物	497,547	1年内償還予定地方債	608,179
工作物減価償却累計額	-258,762	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	80,746
航空機	-	預り金	-
航空機減価償却累計額	-	その他	46,206
その他	-	負債合計	7,708,396
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	18,953	固定資産等形成分	26,879,972
インフラ資産	12,667,510	剰余分(不足分)	-7,063,047
土地	8,626,844		
建物	183,915		
建物減価償却累計額	-113,177		
工作物	20,387,404		
工作物減価償却累計額	-16,775,502		
その他	482,928		
その他減価償却累計額	-211,941		
建設仮勘定	87,040		
物品	783,345		
物品減価償却累計額	-456,013		
無形固定資産	2,247		
ソフトウェア	2,247		
その他	-		
投資その他の資産	1,541,768		
投資及び出資金	380,862		
有価証券	-		
出資金	380,862		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	19,699		
長期貸付金	9,916		
基金	1,134,081		
減債基金	-		
その他	1,134,081		
その他	-		
徴収不能引当金	-2,790		
流動資産	1,796,897		
現金預金	637,131		
未収金	9,575		
短期貸付金	3,068		
基金	1,148,479		
財政調整基金	1,148,479		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-1,356		
資産合計	27,525,321	純資産合計	19,816,926
		負債及び純資産合計	27,525,321

令和3年度末現在の資産総額は約275億円です。負債総額は約77億円で、資産総額から負債総額を差し引いた純資産は約198億円となりました。

資産のうち87.86%を占めているのは有形固定資産(約242億円)であり、その内訳は事業用資産が約112億円、インフラ資産が約127億円、物品が約3億円でした。

一方負債は、資産形成のために発行した公債が短期分で約6億円、長期分で約55億円と負債全体の79.48%を占めています。

行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名：川島町

会計：一般会計等

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	6,885,566
業務費用	3,938,671
人件費	1,364,944
職員給与費	1,045,023
賞与等引当金繰入額	80,746
退職手当引当金繰入額	-
その他	239,175
物件費等	2,522,096
物件費	1,629,407
維持補修費	25,858
減価償却費	866,831
その他	-
その他の業務費用	51,631
支払利息	22,541
徴収不能引当金繰入額	-
その他	29,090
移転費用	2,946,896
補助金等	2,163,329
社会保障給付	369,472
他会計への繰出金	412,011
その他	2,083
経常収益	286,726
使用料及び手数料	62,195
その他	224,530
純経常行政コスト	6,598,841
臨時損失	0
災害復旧事業費	-
資産除売却損	0
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	1,133
資産売却益	1,133
その他	-
純行政コスト	6,597,708

令和3年度の1年間で行政活動に要した経常費用合計は約69億円で、経常収益合計は約3億円でした。統一モデルでは税収は経常収益の中には含まれていません。これは、税収を住民からの拠出（出資金）として考えているためです。

経常費用合計のうち、人件費は約14億円（19.82%）です。物件費は消耗品費、減価償却費等で約25億円（36.63%）でした。他会計や補助金、社会保障関係費等への移転支出は約29億円（42.80%）になりました。

純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名：川島町
会計：一般会計等

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	19,259,655	26,438,350	-7,178,695
純行政コスト(△)	-6,597,708		-6,597,708
財源	7,154,974		7,154,974
税収等	5,441,634		5,441,634
国県等補助金	1,713,340		1,713,340
本年度差額	557,266		557,266
固定資産等の変動(内部変動)		441,617	-441,617
有形固定資産等の増加		741,186	-741,186
有形固定資産等の減少		-1,046,346	1,046,346
貸付金・基金等の増加		1,044,690	-1,044,690
貸付金・基金等の減少		-297,912	297,912
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	5	5	
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	557,271	441,622	115,649
本年度末純資産残高	19,816,926	26,879,972	-7,063,047

令和3年度の財源の調達は約72億円となっており、その内訳は税収約54億円や国からの補助金収入などの移転収入約17億円が主なものです。

この結果純資産が約6億円増加し、期末純資産残高は約198億円となりました。この期末純資産残高は「貸借対照表」の「純資産合計」に対応しています。

資金収支計算書	
自 令和3年4月1日	
至 令和4年3月31日	
自治体名:川島町	
会計:一般会計等	(単位:千円)
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	6,023,601
業務費用支出	3,076,705
人件費支出	1,369,941
物件費等支出	1,655,265
支払利息支出	22,541
その他の支出	28,958
移転費用支出	2,946,896
補助金等支出	2,163,329
社会保障給付支出	369,472
他会計への繰出支出	412,011
その他の支出	2,083
業務収入	7,372,274
税収等収入	5,449,179
国県等補助金収入	1,647,681
使用料及び手数料収入	62,219
その他の収入	213,194
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	1,348,673
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,282,028
公共施設等整備費支出	532,646
基金積立金支出	671,459
投資及び出資金支出	77,923
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	67,092
国県等補助金収入	65,659
基金取崩収入	300
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	1,133
その他の収入	-
投資活動収支	-1,214,936
【財務活動収支】	
財務活動支出	614,009
地方債償還支出	558,199
その他の支出	55,810
財務活動収入	372,672
地方債発行収入	372,672
その他の収入	-
財務活動収支	-241,337
本年度資金収支額	-107,600
前年度末資金残高	744,731
本年度末資金残高	637,131
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	637,131

事業活動収支、投資活動収支及び財務活動収支に分かれていますが、このうち業務活動収支の結果は約13億円のプラスであり、投資活動収支は約12億円のマイナス、財務活動収支は約2億円のマイナスであったことがわかります。

この結果、令和3年度の資金収支額は約1億円のマイナスとなり、期末資金残高は約6億円となりました。この期末資金残高は、「貸借対照表」の「資金」の項目に対応しています。

3 令和3年度川島町全体財務書類4表

連結貸借対照表			
(令和4年3月31日現在)			
自治体名:川島町			(単位:千円)
会計:全体会計			
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	39,634,004	固定負債	17,307,483
有形固定資産	38,061,349	地方債等	8,681,734
事業用資産	11,189,568	長期未払金	-
土地	4,138,504	退職手当引当金	1,351,627
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	-	その他	7,274,121
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	1,461,080
建物	18,771,235	1年内償還予定地方債等	812,340
建物減価償却累計額	-11,977,908	未払金	482,983
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	497,547	前受金	100
工作物減価償却累計額	-258,762	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	86,375
船舶	-	預り金	10
船舶減価償却累計額	-	その他	79,273
船舶減損損失累計額	-	負債合計	18,768,563
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	41,138,464
浮標等減損損失累計額	-	剰余分(不足分)	-16,796,376
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	18,953		
インフラ資産	26,047,311		
土地	8,672,791		
土地減損損失累計額	-		
建物	643,585		
建物減価償却累計額	-285,051		
建物減損損失累計額	-		
工作物	37,185,668		
工作物減価償却累計額	-20,539,211		
工作物減損損失累計額	-		
その他	482,928		
その他減価償却累計額	-211,941		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	98,544		
物品	2,364,159		
物品減価償却累計額	-1,539,690		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	227,940		
ソフトウェア	2,247		
その他	225,693		
投資その他の資産	1,344,715		
投資及び出資金	12,660		
有価証券	-		
出資金	12,660		
その他	-		
長期延滞債権	53,370		
長期貸付金	9,916		
基金	1,276,656		
減債基金	-		
その他	1,276,656		
その他	-		
徴収不能引当金	-7,887		
流動資産	3,476,647		
現金預金	1,883,921		
未収金	83,688		
短期貸付金	3,068		
基金	1,501,392		
財政調整基金	1,501,392		
減債基金	-		
棚卸資産	8,116		
その他	-		
徴収不能引当金	-3,538		
繰延資産	-	純資産合計	24,342,088
資産合計	43,110,651	負債及び純資産合計	43,110,651

令和3年度末現在の資産総額は約431億円です。負債総額は約188億円で、資産総額から負債総額を差し引いた純資産は約243億円となりました。

資産のうち88.29%を占めているのは有形固定資産 約381億円であり、その内訳は事業用資産が約112億円、インフラ資産が約260億円、物品が約8億円でした。

一方負債は、資産形成のために発行した公債が短期分で約8億円、長期分で約87億円と負債全体の50.58%を占めています。

連結行政コスト計算書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

自治体名: 川島町

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	11,673,186
業務費用	4,864,954
人件費	1,412,517
職員給与費	1,085,356
賞与等引当金繰入額	84,397
退職手当引当金繰入額	-
その他	242,764
物件費等	3,298,233
物件費	1,892,778
維持補修費	46,014
減価償却費	1,359,441
その他	-
その他の業務費用	154,203
支払利息	72,970
徴収不能引当金繰入額	2,735
その他	78,498
移転費用	6,808,232
補助金等	6,436,433
社会保障給付	369,716
その他	2,083
経常収益	803,705
使用料及び手数料	541,423
その他	262,282
純経常行政コスト	10,869,480
臨時損失	21
災害復旧事業費	-
資産除売却損	0
損失補償等引当金繰入額	-
その他	21
臨時利益	1,133
資産売却益	1,133
その他	1
純行政コスト	10,868,368

令和3年度の1年間で行政活動に要した経常費用合計は約117億円で、経常収益合計は約8億円でした。統一モデルでは税収は経常収益の中には含まれていません。これは、税収を住民からの拠出（出資金）として考えているためです。

経常費用合計のうち、人件費は約14億円（12.10%）です。物件費は消耗品費、減価償却費等で約33億円（28.25%）でした。他会計や補助金、社会保障関係費等への移転支出は約68億円（58.32%）になりました。

連結純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名: 川島町

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	23,828,587	40,538,939	-16,710,352	-
純行政コスト(△)	-10,868,368		-10,868,368	-
財源	11,381,864		11,381,864	-
税収等	7,366,459		7,366,459	-
国県等補助金	4,015,404		4,015,404	-
本年度差額	513,496		513,496	-
固定資産等の変動(内部変動)		599,520	-599,520	
有形固定資産等の増加		1,477,435	-1,477,435	
有形固定資産等の減少		-1,540,686	1,540,686	
貸付金・基金等の増加		1,062,551	-1,062,551	
貸付金・基金等の減少		-399,780	399,780	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	5	5		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
本年度純資産変動額	513,501	599,525	-86,024	-
本年度末純資産残高	24,342,088	41,138,464	-16,796,376	-

令和3年度の財源の調達は約114億円となっており、その内訳は税収74億円や国からの補助金収入などの移転収入約40億円が主なものです。

この結果純資産が約5億円増加し、期末純資産残高は約243億円となりました。この期末純資産残高は「貸借対照表」の「純資産合計」に対応しています。

連結資金収支計算書	
自 令和3年4月1日	
至 令和4年3月31日	
自治体名: 川島町	
会計: 全体会計	(単位: 千円)
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	10,280,368
業務費用支出	3,497,421
人件費支出	1,417,845
物件費等支出	1,930,428
支払利息支出	72,970
その他の支出	76,178
移転費用支出	6,782,947
補助金等支出	6,411,148
社会保障給付支出	369,716
その他の支出	2,083
業務収入	11,913,942
税収等収入	7,156,137
国県等補助金収入	3,948,458
使用料及び手数料収入	558,400
その他の収入	250,946
臨時支出	21
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	21
臨時収入	1,288
業務活動収支	1,634,840
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,938,275
公共施設等整備費支出	1,263,731
基金積立金支出	671,544
投資及び出資金支出	3,000
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	357,856
国県等補助金収入	356,156
基金取崩収入	300
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	1,133
その他の収入	268
投資活動収支	-1,580,419
【財務活動収支】	
財務活動支出	832,636
地方債等償還支出	774,515
その他の支出	58,121
財務活動収入	737,072
地方債等発行収入	737,072
その他の収入	-
財務活動収支	-95,564
本年度資金収支額	-41,143
前年度末資金残高	1,925,063
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	1,883,921
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	1,883,921

事業活動収支、投資活動収支及び財務活動収支に分かれています。このうち業務活動収支の結果は約16億円のプラスであり、投資活動収支は約16億円のマイナス、財務活動収支は約1億円のマイナスであったことがわかります。この結果、令和3年度の資金収支額は約0.4億円のマイナスとなり、期末資金残高は約19億円となりました。この期末資金残高は、「貸借対照表」の「資金」の項目に対応しています。

4 令和3年度川島町連結財務書類4表

連結貸借対照表			
(令和4年3月31日現在)			
自治体名:川島町			
会計:連結会計		(単位:千円)	
科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	40,509,878	固定負債	17,965,798
有形固定資産	38,790,297	地方債等	8,950,250
事業用資産	11,707,280	長期未払金	-
土地	4,290,376	退職手当引当金	1,746,878
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	-	その他	7,268,671
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	1,532,014
建物	19,283,107	1年内償還予定地方債等	843,444
建物減価償却累計額	-12,148,404	未払金	492,474
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	507,165	前受金	100
工作物減価償却累計額	-266,372	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	115,831
船舶	-	預り金	892
船舶減価償却累計額	-	その他	79,273
船舶減損損失累計額	-	負債合計	19,497,813
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	42,016,361
浮標等減損損失累計額	-	剰余分(不足分)	-17,297,378
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	3,230		
その他減価償却累計額	-2,550		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	40,728		
インフラ資産	26,117,323		
土地	8,672,791		
土地減損損失累計額	-		
建物	643,585		
建物減価償却累計額	-285,051		
建物減損損失累計額	-		
工作物	37,459,287		
工作物減価償却累計額	-20,742,818		
工作物減損損失累計額	-		
その他	482,928		
その他減価償却累計額	-211,941		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	98,544		
物品	2,699,001		
物品減価償却累計額	-1,733,306		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	231,516		
ソフトウェア	2,736		
その他	228,780		
投資その他の資産	1,488,064		
投資及び出資金	9,660		
有価証券	-		
出資金	9,660		
その他	-		
長期延滞債権	53,370		
長期貸付金	10,356		
基金	1,351,989		
減価基金	-		
その他	1,351,989		
その他	70,577		
徴収不能引当金	-7,887		
流動資産	3,706,918		
現金預金	2,076,771		
未収金	118,972		
短期貸付金	3,068		
基金	1,503,415		
財政調整基金	1,503,415		
減価基金	-		
棚卸資産	8,116		
その他	114		
徴収不能引当金	-3,538		
繰延資産	-	純資産合計	24,718,982
資産合計	44,216,795	負債及び純資産合計	44,216,795

令和3年度末現在の資産総額は約442億円です。負債総額は約195億円で、資産総額から負債総額を差し引いた純資産は約247億円となりました。

資産のうち87.73%を占めているのは有形固定資産 約388億円 であり、その内訳は事業用資産が約117億円、インフラ資産が約261億円、物品が約10億円でした。

一方負債は、資産形成のために発行した公債が短期分で約8億円、長期分で約90億円と負債全体の50.23%を占めています。

連結行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名: 川島町

会計: 連結会計

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	13,467,217
業務費用	5,577,401
人件費	2,046,686
職員給与費	1,587,458
賞与等引当金繰入額	113,850
退職手当引当金繰入額	44,080
その他	301,299
物件費等	3,373,726
物件費	1,923,821
維持補修費	48,476
減価償却費	1,401,233
その他	197
その他の業務費用	156,988
支払利息	73,659
徴収不能引当金繰入額	2,735
その他	80,593
移転費用	7,889,816
補助金等	5,582,081
社会保障給付	2,305,371
その他	2,364
経常収益	971,845
使用料及び手数料	537,948
その他	433,897
純経常行政コスト	12,495,372
臨時損失	2,834
災害復旧事業費	-
資産除売却損	2,813
損失補償等引当金繰入額	-
その他	21
臨時利益	1,133
資産売却益	1,133
その他	1
純行政コスト	12,497,072

令和3年度の1年間で行政活動に要した経常費用合計は約135億円で、経常収益合計は約10億円でした。統一モデルでは税収は経常収益の中には含まれていません。これは、税収を住民からの拠出(出資金)として考えているためです。

経常費用合計のうち、人件費は20億円(15.20%)です。この中には、毎年必要な額を給付するものとして考える退職給付費用が含まれています。物件費は消耗品費、減価償却費等で約34億円(25.05%)でした。他会計や補助金、社会保障関係費等への移転費用支出は約79億円(58.59%)になりました。

連結純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

自治体名: 川島町

会計: 連結会計

(単位: 千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	24,233,618	41,396,880	-17,163,261	-
純行政コスト(△)	-12,497,072		-12,497,072	-
財源	12,976,676		12,976,676	-
税収等	8,286,589		8,286,589	-
国県等補助金	4,690,087		4,690,087	-
本年度差額	479,604		479,604	-
固定資産等の変動(内部変動)		620,149	-620,149	
有形固定資産等の増加		1,541,422	-1,541,422	
有形固定資産等の減少		-1,582,485	1,582,485	
貸付金・基金等の増加		1,092,431	-1,092,431	
貸付金・基金等の減少		-431,219	431,219	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	98	98		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	2,162	-2,857	5,018	-
その他	3,500	2,091	1,409	-
本年度純資産変動額	485,364	619,481	-134,117	-
本年度末純資産残高	24,718,982	42,016,361	-17,297,378	-

令和3年度の財源の調達は約130億円となっており、その内訳は税収約83億円や国からの補助金収入などの移転収入約47億円が主なものです。

この結果純資産が約5億円増加し、期末純資産残高は約247億円となりました。この期末純資産残高は「貸借対照表」の「純資産合計」に対応しています。

連結資金収支計算書	
自 令和3年4月1日	
至 令和4年3月31日	
自治体名: 川島町	
会計: 連結会計	(単位: 千円)
科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	11,976,404
業務費用支出	4,111,861
人件費支出	1,979,371
物件費等支出	1,980,539
支払利息支出	73,659
その他の支出	78,292
移転費用支出	7,864,543
補助金等支出	5,556,808
社会保障給付支出	2,305,371
その他の支出	2,364
業務収入	13,648,394
税込等収入	8,076,267
国県等補助金収入	4,603,211
使用料及び手数料収入	554,924
その他の収入	413,991
臨時支出	21
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	21
臨時収入	1,288
業務活動収支	1,673,257
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,025,082
公共施設等整備費支出	1,329,904
基金積立金支出	695,178
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	385,786
国県等補助金収入	352,732
基金取崩収入	31,739
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	1,133
その他の収入	183
投資活動収支	-1,639,296
【財務活動収支】	
財務活動支出	867,808
地方債等償還支出	803,435
その他の支出	64,373
財務活動収入	785,515
地方債等発行収入	784,918
その他の収入	597
財務活動収支	-82,294
本年度資金収支額	-48,332
前年度末資金残高	2,117,782
比例連結割合変更に伴う差額	6,841
本年度末資金残高	2,076,290
前年度末歳計外現金残高	482
本年度歳計外現金増減額	-1
本年度末歳計外現金残高	481
本年度末現金預金残高	2,076,771

事業活動収支、投資活動収支及び財務活動収支に分かれています。このうち業務活動収支の結果は約17億円のプラスであり、投資活動収支は約16億円のマイナス、財務活動収支は約1億円のマイナスであったことがわかります。

この結果、令和3年度の資金収支額は約0.5億円のマイナスとなり、期末資金残高は約21億円となりました。この期末資金残高は、「貸借対照表」の「資金」の項目に対応しています。

5 各指標による分析

財務書類の個々の数字を見ても、それが何を意味しているのかわかりづらいものがあります。そのため、財務書類データを指標化し、計数や指標を経年比較、団体間比較を通じて分析することで、自治体経営上の課題や将来予測、弱点や特性を把握することが可能となります。

(1) 資産形成度 ～「将来世代に残る資産はどのくらいあるか」～

① 町民一人当たり資産額

・ 資産合計 ÷ 住民基本台帳人口

(単位：円)

一般会計等	R3	R2	増減
	1,427,588	1,386,014	41,574

(単位：円)

全体会計	R3	R2	増減
	2,235,914	2,169,801	66,113

資産合計を人口で割ることで、過去の資産形成度が町民一人当たりでどの位進んでいるのかが分かります。

② 歳入額対資産比率

・ 資産総額 ÷ 歳入総額

(単位：年)

一般会計等	R3	R2	増減
	3.22	2.73	0.49

(単位：年)

全体会計	R3	R2	増減
	2.89	2.57	0.3

これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表しています。

③ 有形固定資産減価償却率

・ 減価償却累計額 ÷ (※1 有形固定資産—土地+減価償却累計額)

(単位：%,ポイント)

一般会計等	R3	R2	増減
	72.5	71.3	1.2

(単位：%,ポイント)

全体会計	R3	R2	増減
	58.1	57.1	1.0

有形固定資産のうち償却資産（建物、工作物、物品など）について、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表しています。この比率が高いほど施設の老朽化が進んでいると言えます。

※1・・・建設仮勘定は除きます。

(2) 世代間公平性 ～「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」～

① 純資産比率

・純資産総額÷資産総額

(単位：%,ポイント)

一般会計等	R3	R2	増減
	72	70.8	1.2

(単位：%,ポイント)

全体会計	R3	R2	増減
	56.5	56	0.5

総資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表しています。企業会計でいう「自己資本比率」に相当し、この比率が高いほど財政状況が健全であると言えます。

② 社会資本等形成の世代間負担比率

・地方債残高÷有形固定資産

(単位：%,ポイント)

一般会計等	R3	R2	増減
	7	7.5	-0.5

(単位：%,ポイント)

全体会計	R3	R2	増減
	13.2	13.2	0

社会資本の整備の結果を示す有形固定資産（事業用資産、インフラ資産、物品）を町債などの借入れによってどれくらい調達したかを表しています。この比率が高いほど将来の世代が負担する割合が高いことを表します。

(3) 健全性（持続可能性）～「財政に持続可能性があるか」～

① 町民一人当たり負債額

・負債合計÷住民基本台帳人口

(単位：円)

一般会計等	R3	R2	増減
	399,792	404,480	△ 4688

(単位：円)

全体会計	R3	R2	増減
	973,423	955,420	18,003

負債合計を人口で割ることで、将来の負担額が市民一人当たりでどの位残っているのかが分かります。他団体との比較を行う際などの比較指標として有効です。

② 基礎的財政収支

- ・ 業務活動収支（支払利息支出を除く）+投資活動収支（基金積立支出及び基金取崩収入を除く）

（単位：百万円）

一般会計等	R3	R2	増減
	827	352	475

（単位：百万円）

全体会計	R3	R2	増減
	799	195	604

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く。）及び投資活動収支（基金積立支出及び基金取崩収入を除く）の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標です。当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営であると言えます。

（４） 効率性 ～「行政サービスは効率的に提供されているか」～

① 町民一人当たり行政コスト

- ・ 純行政コスト÷住民基本台帳人口

（単位：円）

一般会計等	R3	R2	増減
	342,187	428,252	△ 86,065

（単位：円）

全体会計	R3	R2	増減
	563,683	638,674	△ 74,991

純行政コストを人口で割ることで、地方公共団体の行政活動の効率性が分かります。他団体との比較を行う際などの比較指標として有効ですが、面積や人口などは行政効率に大きな影響を与えるため、比較対象に留意する必要があります。

（５） 弾力性 ～「資産形成等を行う余裕はどのくらいあるか」～

① 行政コスト対税収等比率

- ・ 純経常行政コスト÷財源（税収等+国県等補助金）

（単位：％,ポイント）

一般会計等	R3	R2	増減
	92.2	96.9	-4.7

（単位：％,ポイント）

全体会計	R3	R2	増減
	95.5	96.8	-1.3

資産形成の伴わない行政活動である行政コストに対して、町税等の一般財源等がどれだけ消費されたかが分かります。数値が低いほど資産形成を行う余裕度は高く、100%を超えている場合は、行政コストを単年度収支でまかなえず、資産形成を行う財源的な余裕がないことを表します。

(6) 自律性 ～「受益者負担の水準はどうなっているか」～

① 受益者負担の割合

・ 経常収益 ÷ 経常費用

(単位：％,ポイント)

一般会計等	R3	R2	増減
	4.2	2.8	1.4

(単位：％,ポイント)

全体会計	R3	R2	増減
	6.9	5.8	1.1

行政サービスの提供に対して、受益者が使用料や手数料などでどの程度負担しているかが分かります。また、その逆数が税金等で負担している割合と言えます。他団体と比較をすることで、受益者負担の特徴を把握することができます。

※各項目を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。

※川島町住民基本台帳人口：19,281人（令和4年3月31日現在）

※各指標の算定については、直近の総務省「地方公会計の推進に関する研究会」報告書の内容は反映しておりません。